

【方針3】 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

【施策の柱1】 人生100年時代を豊かに生きる学びの推進

施策名	① 生涯を通した学びの場の充実						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 51	
	A	B★	B★	B★			
◆取組実績（成果と課題）							
・まちづくりセンター講座は、新しい趣味の発見や仲間づくり、教養を深める場の提供や地域活性化を目的として、市民団体等が企画運営する「市民プロデュース講座」を 32 講座、自主グループが企画運営する「オープン自主グループ講座」を 53 講座、民間事業者 3 者が企画運営する「みんカル講座」を 93 講座、生涯学習人材バンク登録講師を活用した「人材バンク講座」を 26 講座実施し、民間の個人・法人を多く活用した。							
・市民大学前期ミニカレッジは、6 科目を実施し、計 252 人が受講した。							
・市民大学後期講演会は、全 6 回を開催し、824 人が受講した。							
◆次年度への展望							
・乳幼児から高齢者まで生涯にわたる市民の多様な学習ニーズに応えるため、様々な実施主体と協働し、多様な分野のまちづくりセンター講座を実施していく。							
・引き続き、「市民プロデュース講座」、「オープン自主グループ講座」、「みんカル講座」、「人材バンク講座」を実施し、民間の個人・法人を多く活用し、協働で講座を実施していく。							
・市民大学についても、引き続き、豊かな人づくりを目指し、高度で専門的な知識を学ぶ場を提供していく。							
◆指標 講座を受けたことによって、学ぶ意欲が高まったと回答した参加者の割合			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標		60%	100%	100%	100%	100%
	実 績		94.1%	93.8%	93.2%	93.6%	

施策名		② 地域ぐるみの社会教育の推進					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 52	
	A	B★	B★	B★			
取組実績（成果と課題）							
・市民が地域を知り、関心を持ってもらう機会を創出することを目的とした「人づくり講座」等を 118 講座実施した。 ・「少年教育講座」及び「放課後子ども教室×少年教育講座」を実施し、子どもの体験学習の機会と居場所づくりの提供の場を拡充した。 ・市の家庭教育支援体制の充実のため、家庭教育に関わる人材のネットワークづくりを目指し、家庭教育支援員、読書アドバイザー、スマホルールアドバイザー、社会教育委員、さらに関心のある一般公募者も加え「富士市家庭教育支援交流会」を年度2回開催した。							
◆次年度への展望							
・地域資源等、地域に関する学習や、地域の人材と協働して活性化につなげる「人づくり講座」等を引き続き実施していく ・様々な社会教育関わる団体と協力し、新たに小学校1年生から3年生までを対象とした少年教育講座を実施する。 ・家庭教育支援員等、家庭教育に関わる人々へ学習機会の提供や交流の場づくりを継続して行っていく。							
◆指標 講座を受けたことによって、富士市・地域の魅力や課題を知ることができたと回答した参加者の割合			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目 標	60%	100%	100%	100%	↑100%
		実 績	91.8%	90.8%	88.5%	91.0%	

施策名	③ 新たな時代を生き抜く次世代の育成					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 53
	B	A	A	A		
◆取組実績（成果と課題）						
・青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」は、長野県伊那市周辺を研修地とし、令和7年8月9日(土)～12日(火)の3泊4日の日程で、地域交流プログラム、体験プログラム、キズナ学習などの研修を行い、仲間と困難を乗り越える体験を通してコミュニケーション力や課題解決力を育み、自己肯定感を高める青少年の育成を目的として実施した。 ・雫石町少年交流事業は、令和7年7月29日(火)～8月1日(金)の3泊4日の日程で、雫石町の児童が富士市を訪問し、宝永火口トレッキングなどの体験学習を通じて、交友関係の拡大や協調性、責任感、リーダーシップを培うことを目的に行った。 ・青少年指導委員120名体制で非行防止活動を推進し、青少年の健全育成と環境浄化に努めた。 ・社会状況の変化に応じた効果的な時間・場所を再検討し、活動の実効性を高める必要がある。						
◆次年度への展望						
・青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」は、長野県伊那市などを中心に、地域の特色を活かした体験や交流の機会を一層充実させ、研修生が主体的に学び成長できるよう研修内容をさらに魅力的で実りあるものへ発展させていく。 ・雫石町少年交流事業は、富士市の児童が雫石町を訪問し、森のしずく公園での献花・拝礼や小岩井農場見学などの体験学習を行う。 ・積極的な声掛けや補導・環境浄化を通じ、青少年の非行防止と健全育成を推進する。						
◆指標 体験交流事業参加者の満足度（雫石町少年交流事業、青少年体験交流事業の満足度）		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	100%	100%	100%	100%	100%
	実 績	—%	94.8%	100%	100%	

〔施策の柱2〕 市民の学びの場である図書館の充実

施策名		① 生涯にわたる読書習慣の推進					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 55	
	B	B	B	B			
◆取組実績（成果と課題）							
- 誰もが利用しやすい環境づくりとして、週末の「にぎわい図書館デー*」、夏休みの中高生のグループ学習用に中央図書館会議室を開放、乳幼児の保護者向けに託児サービス（48 回実施、244 人利用）を実施した。 - 乳幼児期からの読書習慣の形成に向け、ブックスタートやセカンドブック事業、「プレママ・プレパパ読み聞かせ講座*」を実施したほか、生涯学習を推進するため、児童文学講演会などを開催した。 - 電子図書館の利用促進に向け、新たに電子雑誌を導入するとともに、トップページの表示内容を随時更新することで利用者がアクセスしやすい工夫を行った。 - 貸出実績は、1,600,089 点（電子書籍を含む）で、前年度の1,623,245 点と比べ1.4%減となった。レファレンスは29,850 件で、前年度の31,259 件と比べて4.5%減少した。							
◆次年度への展望							
- 市民ニーズに応じた資料の収集・提供を進めるとともに、生涯学習を支援する講座・講演会を実施する。 - 子どもが絵本に触れる機会を広げるため、移動図書館が保育園を巡回した際に図書館職員によるおはなし会を実施し、中央図書館では保育幼稚園課と連携したおはなし会を開催する。 - 電子図書館の学校利用を促進するため、市内小中学校と連携し、GIGA タブレット端末での活用を進める。 - 第三次子ども読書活動推進計画の進捗状況を検証し、令和9年度以降の施策の見直しに取り組む。 「(仮称) 図書館基本計画」の策定に向け、これからの図書館サービスのあり方について検討を進める。							
◆指標 1人当たりの図書貸出数			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目 標	7.4 点	7.4 点	7.2 点	7.2 点	8.2 点
		実 績	7.2 点	6.9 点	6.6 点	6.6 点	

施策名	② 本・人・地域をつなぐ人材育成					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 55
	A	A	A	A		
◆取組実績（成果と課題）						
・読み聞かせ活動を支える人材育成として、「読み聞かせボランティア・デビュー講座」や「読み聞かせ講座」など、計 20 回の講座を実施した。						
・視覚障害者向けの音訳・点訳図書の作成に携わるボランティアの技術向上を図るため、音訳講座を 4 回、点訳講座を 1 回実施した。新規に音訳図書 16 点、点訳図書 17 点を作成し、利用者に提供した。						
◆次年度への展望						
・点訳や音訳、読み聞かせボランティアの人材育成のため、講座や勉強会を継続して開催する。						
・ボランティア活動が円滑に行えるよう、勉強会などに必要な会場や資料を提供し、引き続き活動を支援する。						
・ボランティア活動へ理解を深め新たな人材を発掘するため、図書館まつり等で活動を紹介する。						
◆指標 ボランティア養成講座の参加者数		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	160 人	180 人	※令和 6 年度から、参加者の累計数 を目標値・実績とする。		
	実 績	176 人	565 人			
◆指標 ボランティア養成講座の参加者数（累計）		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	—	180 人	1,090 人	1,500 人	↑1,800 人
	実 績	—	741 人	1,272 人	1,750 人	

〔施策の柱3〕 こころ豊かな市民文化の創造

施策名	② 文化財の保存と活用					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 58
	B	B	B	B★		
◆取組実績（成果と課題）						
・国登録有形文化財「旧順天堂田中歯科医院」の移築復原に向けた実施設計が完了した。 ・国指定史跡「浅間古墳」の発掘調査について、補助金を確保しながら着実に実施する必要がある。 ・市指定史跡「千人塚古墳」内の竹・笹の地下茎処理等の環境整備及び公開記念イベントを行った。 ・「頼朝と曾我兄弟」史跡活用イベントとして、出張展示及びデジタルスタンプラリーを行った。 ・無形民俗文化財継承支援として、「大北のカワカンジー*」を記録保存するため、有識者との検討を実施した。 今後、地域の伝統行事の継承に向け、住民の理解をいかに得ていくか、参画を促していくかが課題となっている。						
◆次年度への展望						
・国登録有形文化財「旧順天堂田中歯科医院」の移築復原に向けた解体調査・工事を実施する。 ・国指定史跡「浅間古墳」保存整備に伴う発掘調査を実施するほか、茶木伐採等周辺整備を実施する。 ・「頼朝と曾我兄弟」史跡活用イベントとして、ワークショップや講演会を地域や関連市町と協働で実施するほか、オリジナルキャラクターの利活用の推進を通して、歴史・文化財の継承への機運を高める。 ・しずおか遺産「駿河湾のめぐみと行き交う船」を構成する歴史・文化財の啓発事業やARを活用した文化財紹介事業を実施し、地域の魅力を伝えとともに歴史・文化財への理解を深める ・「大北のカワカンジー」継承のため、地域住民と協働でカワカンジーを制作する。						
◆指標 文化財普及活動に参加した人数 (※R7 目標までは、主要事業のみ抽出)		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	200 人	200 人	480 人	640 人	12, 100 人
	実 績	131 人	183 人	429 人	12, 011 人	

施策名	③ 学びの場である博物館の充実					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 58
	B	B	B	B		
◆取組実績（成果と課題） ・市内外の縄文時代の出土品から、縄文人の思想や世界観に迫る企画展を開催した。 ・学習支援等の件数が減少に転じているため、学校と展示室をオンラインで繋ぐ授業の本格的な導入を踏まえ、校長会や社会科主任者会においてPRし、小学校1校、中学校1校で実施した。提供するプログラムの精度を高め、学校側のニーズとすり合わせて内容をブラッシュアップさせることが課題である。 ・バラの開花時期の団体客が大幅に増えた。特別展示室では5つの展示会、展示室2では4つの特集展示、加えて25回の講座・体験学習などを計画どおり実施できた。そのうち、2つの展示会において、全国的にも事例が少ない「博物館でぬいぐるみお泊まり会」を開催し、新たな客層の開拓に繋がった。 ※利用者数 68,549 人（一日平均245 人・利用者累計2,099,660 人）対前年度比8,474 人増						
◆次年度への展望 ・郷土の博物館としての役割を踏まえ、市内小中学校等との連携強化に取り組む。 ・小中学校や高等学校との連携においては、高校生による展示解説等のボランティア活動促進や、小中学校へのデジタルコンテンツを活用した連携を研究するとともに、来館機会を増やしていただくようアプローチする。 ・市制60周年の記念の年でもあることから、魅力ある展示会や体験講座を実施する。						
◆指標 博物館資料を活用した学習支援 の件数（児童生徒・高齢者の見学、 体験学習、出前講座ほか）		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	132 件	70 件	70 件	90 件	70 件
	実 績	69 件	60 件	83 件	63 件	